

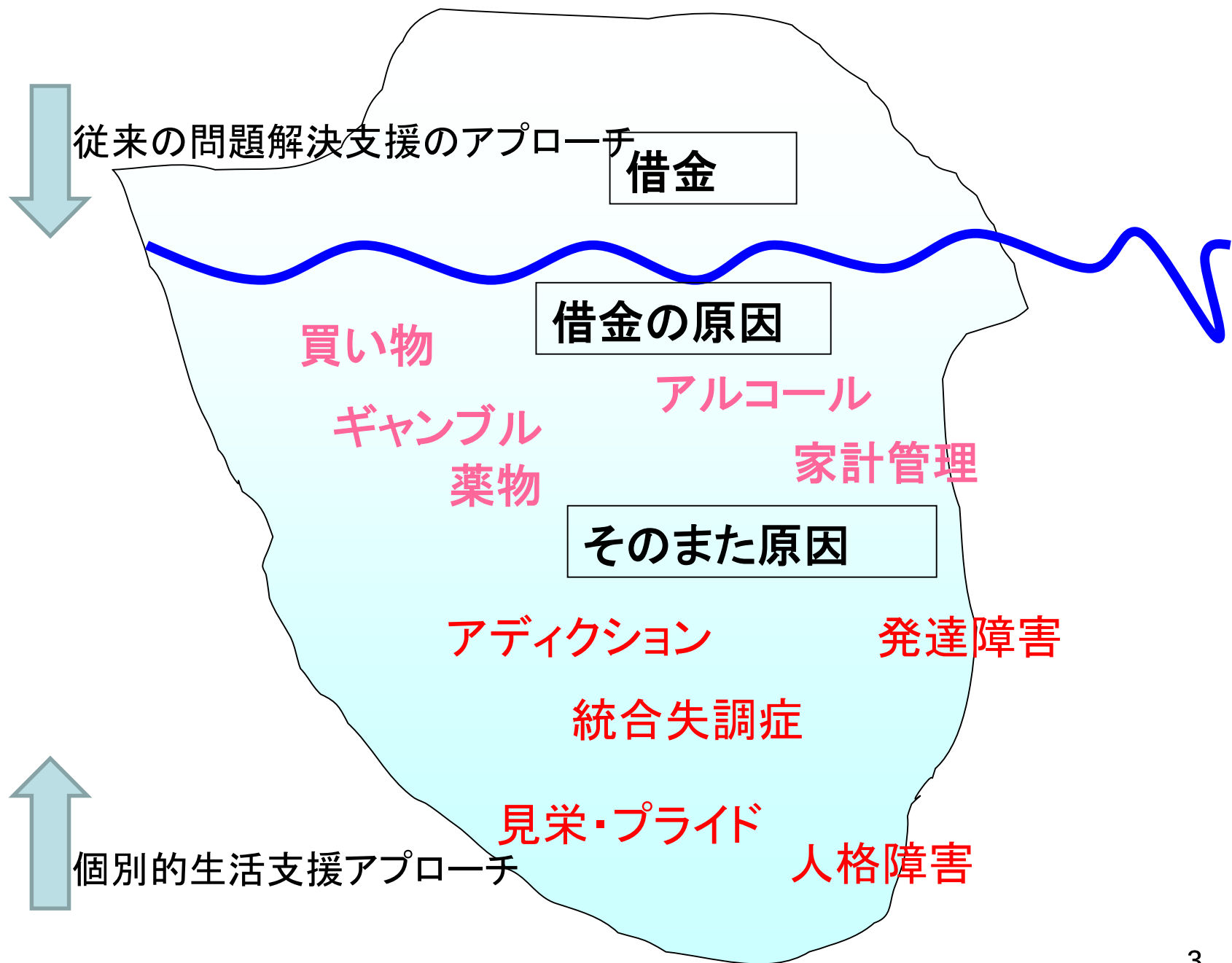
# 個別的生活支援アプローチによる 多重債務者の支援

—事例で学ぶ介入から回復まで—

司法書士 稲村 厚

# 本研修のねらい

- 多重債務者の支援を考える
- 多重債務の原因とその克服について考える
- 個別支援と地域連携について考える
- 社会福祉における多重債務相談の役割を考える



# 支援のゴールは？

- 問題の解決（借金の整理）だけがゴールか？  
何度も繰り返される借金  
巻き込まれる家族
- 問題（借金）の原因への介入は可能か？  
本当の話を聴くことができるか？  
信頼関係を築くには時間がかかる
- 生活支援は私たちだけでできるか？  
他の社会資源との連携
- 生活支援で私たちのできることは？  
自分で仕事を限定していないか？

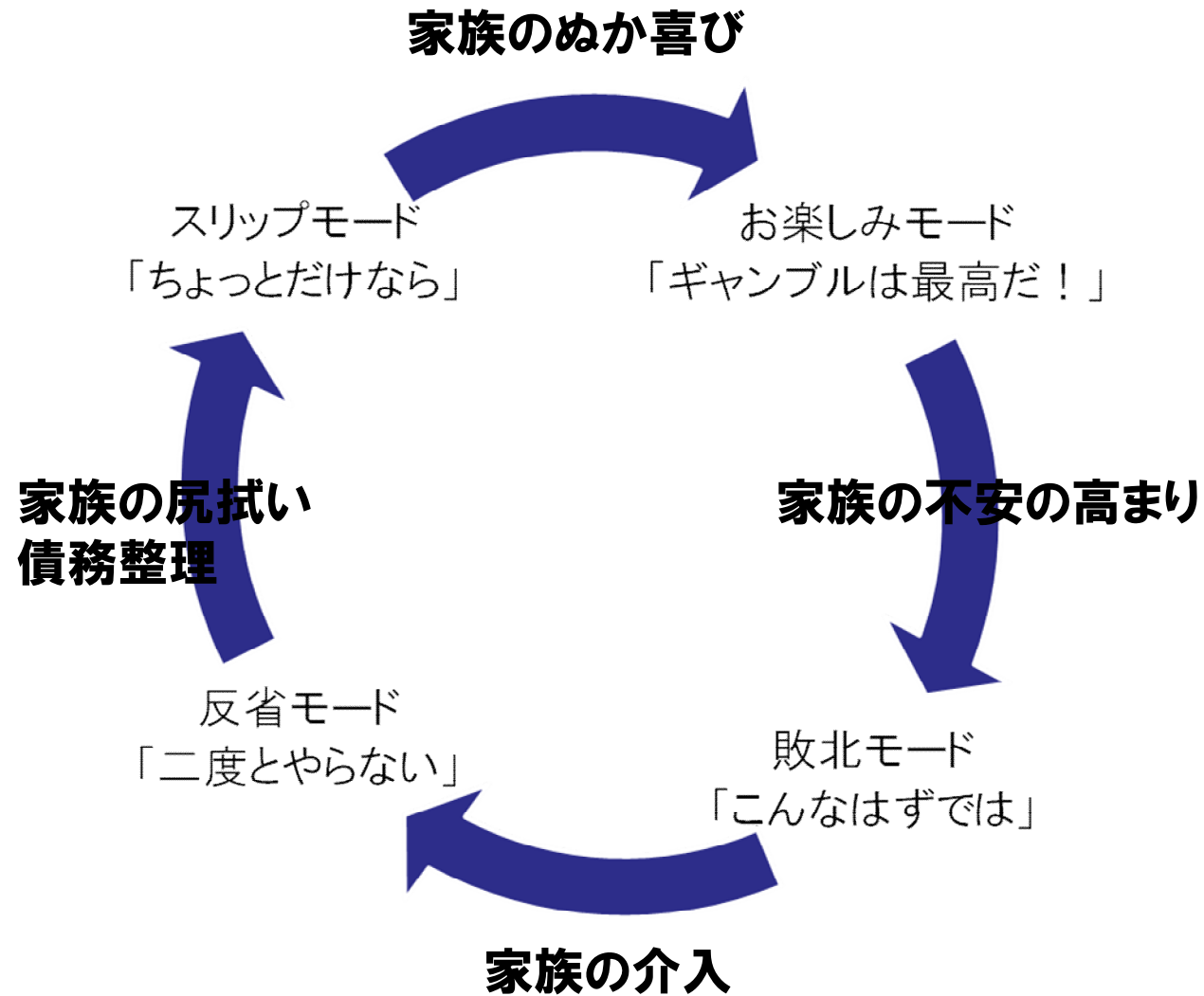
# 多重債務を社会福祉として考える

- 社会福祉とは？  
社会的弱者を社会が支援する理念  
それぞれに合った支援を組み合わせる
- 多重債務問題は？  
貧困・失業・疾病・障害⇒社会福祉の分野
- フランスの場合  
多重債務は社会福祉  
ソーシャルワーカーが担当する

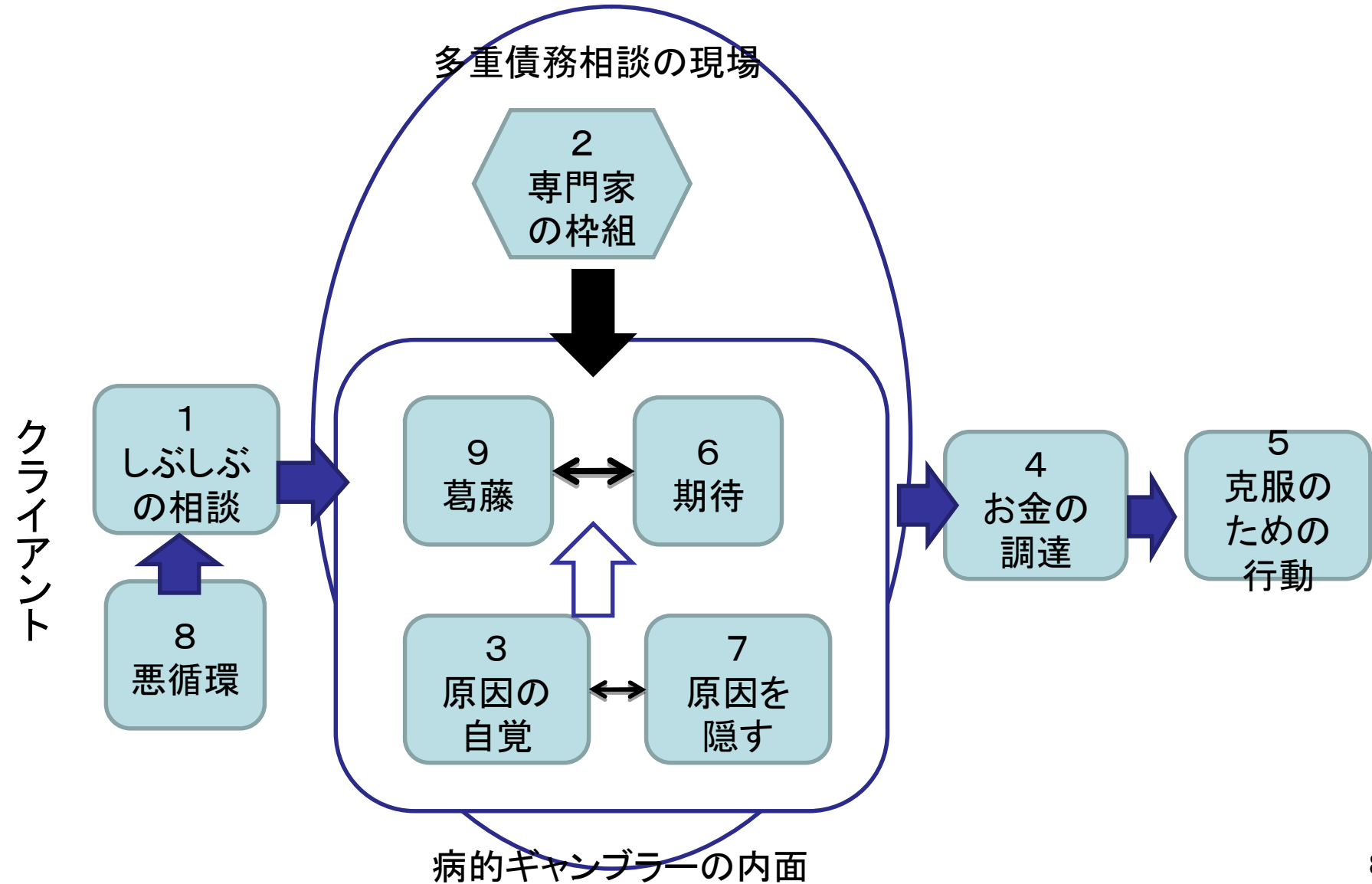
# 自殺対策との関係

- 生き難い状態からの一時的な逃避行為
- 人間は機械ではない
  - ⇒生身の人間としての危険回避
- 単なる意志の問題ではない
- 生き難い状態を改善することが目標
- 背伸びせず、ありのままに生活できる環境

# 本人と家族の悪循環



# 多重債務相談における病的ギャンブラーのプロセス





# 債務整理後のお金の調達

- 知り合い・親戚にうそをついて借りる
- ヤミ金融に借りる
- 横領
- 窃盗

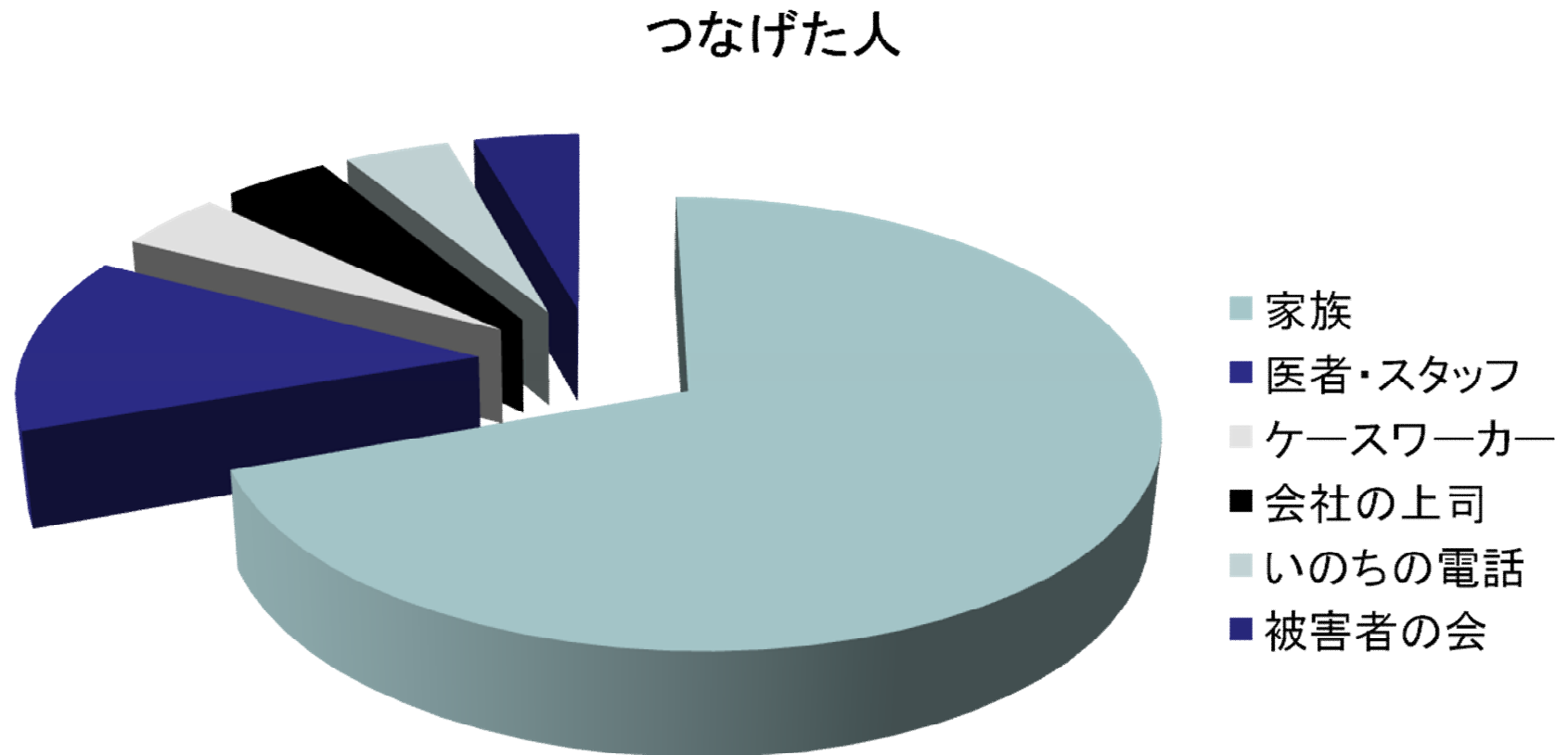
そして・・・

- 失踪

# 借金問題は？

- ギャンブルの場合必ず問題になる  
返済のためのギャンブル
- 唯一問題が表面化するとき
- 本人が、反省モードで提案を受け入れるとき
- 借金の問題のみで解決すると悪循環は続く
- 本質的な問題への介入の機会
- 何ができるか？

# 誰がワンデーポートにつなげたか



# 家族の役割は？

- 借金への介入は、本人を良い方向へは向かわせない

しかし・・・

- 回復への決定的な介入をしているのは、家族である

だから・・・

- 家族が正しい支援方法を見つけることが必要

# 家族がまずできること

- 本人に起きていることを知る
- 本人に影響されない生活確立する
- 本人への、支援を理解する
- 介入のチャンスまで、しっかり準備をする  
⇒ 家族への個別支援

# 家族の介入

- それぞれの家族によって介入の目的や方法が違う
- 本人をすぐ動かせる場合には・・・  
ワンデーポートへ・生活支援の社会資源へ
- 本人が現状維持に固執する場合には・・・  
家族の生活安定の方策へ

☆借金へは関与しない

# 本人支援の順序

- 債務の整理は、棚上げする  
借金の問題ではないことを確定する  
できればそのまま放置  
特別の場合に、法律専門家の受任まで
- 家族診断・社会診断ができるところへ  
現在の問題行為が起こる前に、  
社会不適応がなかったか？
- 社会参加へのリハビリ
- 債務整理は、社会参加して生活が安定してから

# 本人の債務整理

- ワンデーポートモデル  
時期：回復へ向かい社会復帰を果たしてから  
⇔それまでは本人次第  
⇒返済できないのなら事実上延滞  
☆少なくとも回復へ道筋へのせること
- 債務整理の選択は原則どおり
- 自己破産の場合免責不許可にならないか？  
⇒裁判所は総合的に判断する



# 「依存症はひとくくり」への疑問

- のめりこみとリスクの問題
- のめりこみの問題発生以前に  
社会適応の問題はなかったか
- ギャンブル・薬物・アルコールで  
同様の問題提起がなされている
- 発達障害概念の普及が支援のヒントに！

# 3種類の病的ギャンブルリング

- 発達障碍型  
若い人に多い・基本的に対象はパチンコ  
自立したことがなく、否認がない(少ない)  
借金と比較的少額
- アディクション型  
年齢は多彩・対象は様々  
自立しており、否認が強い  
多額の借金
- キャパシティオーバー型

# ゲームとしてのパチンコ

- 発達障害の症状としてのゲーム⇒パチンコへののめりこみ  
逃避的ギャンブル
- 症状から見ると、アディクションと同様に見える  
⇒依存症専門の精神科医は、依存症と診断する

# 基本的な方向

- 精神疾患・発達障碍の場合  
専門の精神科医のアセスメント  
家族・援助者の家計管理から自立へ  
枠組みを守るこだわり
- Addictionの場合  
家族との家計の分離  
枠組みがストレスになる  
相互援助(自助)グループへ

☆債務整理は回復の目途がたってから

# 精神医療の現状

- 発達障害とアディクションを見分けることができていない

⇒依存症⇒GA？

- アディクションは医療では治せない
- 発達障害は検査の結果、障害者手帳がもらえる

⇒発達障害の場合に医療のアセスメントが必要

参考書籍:「精神科セカンドオピニオン2」

# 私たちも・・・法律相談の問題点

- 相談のコミュニケーションをつうじて、相談者のもちこむ問題は、ある定型化された法律問題へと加工される傾向にある。この結果としてあきらかになってくる相談者の法律問題は、必ずしも個性をもっていないものとして定式化される
- 法律相談の場が、しばしば非法律的な生活関心を保っている相談者と、事件の法律的把握を優先しようとする弁護士というきわめて異なった当事者同士が接触する場である

檜村志郎(1994).法律相談制度の可能性 自由と正義45巻2号 p5-11

# ケース1(〇さん)

30代男性・PDD・作業所就労・生活保護

- 高校卒業後から運送業のアルバイト
- パチスロと借金の悪循環
- 両親が家族セミナーからワンデーポートへ
- 医療機関でPDDの診断
- 退所後障害者年金・作業所勤務、生活保護
- 社会福祉協議会と金銭管理契約
- 自己破産

# 家計管理の必要性

- 障害者年金は、2ヶ月に一度支給
- 給与
- 生活保護

2ヶ月に5回の収入

複雑で家計管理困難

生活保護への一本化は困難？

社会福祉協議会の安心センターの利用



# 裁判所の無理解

- Oさんは、自閉症スペクトラム  
人前で話すことが苦手  
審尋でうまく答えられず、管財事件に・・・  
同席審尋で、同時廃止
- 破滅的なギャンブルと借金をしたKさんは、すんなり審尋終了・・・
- 人権の砦が、障碍について無理解

## ケース2(Kさん)

20代男性・障害者年金・社会参加支援継続

- 自立したことはなく自営業の父親の手伝い
- 父親が倒れてからパチンコと借金の悪循環
- 共同生活に不安がありワンデーポート相談から、障害者活動ホーム「太陽」の支援(在宅)
- 母親と本人の距離をとり、受任
- PDDの診断により障害者年金受給
- 過去の年金支給で借金は一括返済
- 現在社会参加の方法を月1度継続相談中

# のめりこむ対象が変わる

- パチンコに依存しているようにみえるが・・・  
TVゲームやゲームセンター  
その後、合コンや風俗・・・
- 性への未成熟が起こす不適応  
パチンコ店の接待スキル
- 社会不適応からのストレスとその解消の問題

# 社会参加とは？

- フルタイム勤務と自立といった一つの最終形態だけではない
- その人なりの自立
  - 家族との距離感
  - どのような支援が必要か
- その人なりの社会とのつながり
  - 短時間労働
  - 仕事ができなくても良い

# アセスメントの機能

- 家族は、重要な情報はたくさん持っているが身近すぎてアセスメントは難しい
- 専門家は、専門分野から枠をはめ、外部の意見に耳を傾けないため、修正が難しい
- 共同生活によって、みえてくる情報から時間をかけたアセスメントができることが理想

# 地域連携先について

- 行政
- 福祉関連施設
- 医療機関
- 自助グループ
- 実際にケースを相談していくことがベスト

## ケース3(Sさん)

- 厳格な家庭のなかで、当初から不適応で、仕事が長続きせず、障害者年金を利用
- ゲームセンター・麻雀等で借金
- 5年前に任意整理
- 2年前に突然自殺未遂(薬服用)
- 片足が不自由になり、性格が豹変する
- 生活保護受給してアパート設定、自己破産
- 社会参加を障害者支援センターと共に継続相談中

# 高次脳障害の可能性

- 自閉的な人が、攻撃的な正確に豹変する
- 頭を打つことによって、脳が損傷した可能性
- 検査によって、明確になる
- 本人・家族・支援者がそれを理解することによって、支援方法が明確になる
- 検査への介入のタイミング



## ケース4（Hさん）

- 資産家の次男（現在60歳）
- 若いころから何度か、親が借金を肩代わり
- 8年前に仕事を首になり、借金が発覚
  - ⇒本人・家族の強い要望で債務整理
  - ⇒再就職したが1年で退職、借金滞納
- 親が亡くなり相続のため、親族会議
- ワンデーポートにつなげたが・・・
- 脳の委縮が判明

# 女性の問題について

- 逃避型ギャンブルが多い
- パチンコが多い
- きっかけは、キャパシティオーバーが多い  
家事・子育て・仕事・・・
- 家庭で発見されると夫の家族に監視される
- 本人と家族の理解が鍵

# うまくいかない場合もある

- 大きな決断は、簡単にできない
- 環境を整えるには時間がかかる
- 不安定であっても、一時しのぎ的な解決を選択せざるを得ない場合もある
- 崩れたときのフォロー体制を整える
- 今より悪くしないことが、第一歩

# 時間をかける必要性

- こだわりの対象が変えられない場合
- 本人が現状を受け入れられない場合
- 家族が無理解の場合  
    連携先と共に待つ姿勢
- せめて継続相談体制
- 複雑な問題は、単純化していくこと
- 時間が解決する場合も多い
- 本人の力を信じること